

## 「笠利小学校の島唄とチジン・三味線が響く運動会・卒業式の取組」

1 学校名 奄美市立笠利小学校

2 学年・人数 1～6年生（計56名）

### 3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成31年4月～令和2年2月 総合的な学習の時間

（本校ホール・本校運動場・本校体育館・本校図書室等）

令和元年9月24日（火）運動会発表リハーサル（本校運動場）

(2) 発表の日時・場所

令和元年9月29日（日）秋季大運動会（本校運動場）

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称 島唄（しまうた）・八月踊り（はちがつおどり）

(2) 由来

奄美には冠婚葬祭などの催しには必ず唄がある。裏声を多用し三味線よりも小ぶりの三線（さんしん）の伴奏により、その集落や生まれ育った所である「シマ」に伝わる島唄である。また、八月踊りは旧暦の八月の丙から、三日踊って（アラセツ）三日休み、そしてまた三日踊る（シバサシ）という集落の全員が唄と踊りに参加する伝統文化である。

(3) 構成等

運動会では、全校児童が輪になって八月踊りの「偽装（衣装）踊り」「三度まけまけ」「赤木名観音堂」を唄いながら踊る。伴奏の三線は地域の指導者などをお願いし、チジン（太鼓）は子どもたち自身がたたく。最後は地域の方々も参加して「六調」を一緒に踊る。

卒業式では、別れの時に歌われる「行きゅんにゃ加那」を、三線の伴奏も子どもたちが担当して全校児童で卒業生に向けて唄う。

### 5 保存会や地域との連携の具体

本校児童が20名近く参加している大笠利わらぶえ島唄クラブは「島唄が好きな子どもを育てる」ことを目的に30年以上活動している。そのクラブの講師に指導をお願いし、すべての子どもたちに島唄を好きになってもらうこともねらいの一つとして活動に取り組んでいる。

また、シマ（地域）によって節回しや歌詞に違いがあることなどを理解させることで、自分の生活地域での八月踊りなどの活動への意欲的な参加を促している。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

運動会や卒業式に披露する島唄ばかりでなく、地域に伝わる様々な島唄の歌詞を子どもたちに分かりやすいように説明していただいたり、練習の中で歌ったりしている。シマグチの表現やシマに伝わる風土・文化・伝承などをいろいろな角度から子どもたちに伝え、子どもたち一人一人に、郷土（シマ）に対する誇りと自信を持たせるように工夫している。

## 7 取組の様子



運動会で口上を述べる児童



チジンをたたき、島唄を歌い踊る児童



運動会で三線を演奏する児童



卒業式に向けて練習する児童

## 8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 島唄の練習がありました。今度の卒業式では私たちが送られる番です。今までの練習を振り返ってみるともうすぐ卒業式がせまってきて、なんだかさびしくなります。これからも奄美の伝統文化を受けついでほしいです。（6年児童）
- 三線に触ったこともなかった子どもたちが2か月足らずでずいぶん上手になってきました。しっかり弾けるようになるとお別れが近づいて来よう、ちょっと複雑です。（教員）
- 郷土の伝統を受け継ぎ、繋いでいく気持ちが子どもたちにも芽生えているようです。ありがたいです。（保護者）

題名「島唄について」
島唄の練習がありました。今度の卒業式では私たちが送られる番です。今までの練習を振り返るともうすぐ卒業式がせまってきて、なんだかさびしくなります。これからも奄美の伝統文化を受けついでほしいです。